

歴史から学び、感謝し、未来を見つめて ～附属旭川小学校は120歳になりました～

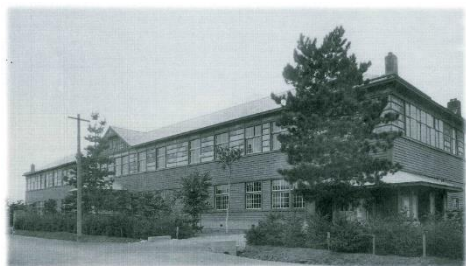
副校長 齊藤 誠

6月を迎え、芝生の上に広がるヒナギクが、正門から入ってくる附小っ子を出迎えてくれるようになりました。空の青さと相まって美しさを増す6月の初日は、附属旭川小学校をはじめ、全道各地にキャンパスのある北海道教育大学とその附属学校園の創立記念日として、全学で休業日にしています。その中で、北海道教育大学旭川校は、大正12年（1923年）に、前身となる北海道旭川師範学校が設置され、本年で98年目を迎えました。



令和3年 校舎

さて、大学が設置される20年以上前の明治26年、現在の旭町1条3丁目の交番がある付近に寺子屋がつけられました。寺子屋では、児童20名程度を集めて授業が行われていました。まだ「学校」ではありませんが、附属旭川小学校につながる教育が始まった瞬間です。



昭和11年 校舎

その後、明治34年（1901年）に近文3線西1号に校舎を構え、近文第5尋常小学校と称したところから、附属旭川小学校の歴史が始まりました。当時は児童数140名で、第4学年までの児童を対象とした教育を行っていました。昭和7年に、北海道旭川師範学校附属旭川小学校が認可され、今の大学のある場所に校舎が新築されました。昭和18年には北海道第3師範学校附属国民学校、昭和22年には北海道第3師範学校附属小学校と名称を変

え、昭和24年に、今の附小がある地区に移転されました。平成16年、国立大学の法人化に合わせて、「北海道教育大学附属旭川小学校」と改称されてからも時を刻み続け、本年で120周年を迎えました。

校舎の移転や名称の変更から、本校の歴史の一部を概観しましたが、この120年の間に、9937名の児童が卒業しています。言い換えれば、在校生を含めて1万余名の児童一人一人の人生がここに在り、それ以上の保護者の皆様の思いや願いが重ねられ、教職員や地域の力を合わせて本日に至る歴史を築いてきたことが分かります。

本年は、新型コロナウイルス感染症の脅威に引き続き対面すると同時に、「GIGAスクール元年」として、一人一台の情報端末を活用して学習することが日常となりました。また、これまで実施してきた専科教員（担任をもたずに教科を専門に指導）による授業に加え、高学年を中心とした教科担任（担任学級以外に他の学級の教科も指導）による授業の実施など、学力向上のための取組も進んでいます。昨年度から、まだ一度も全校児童が集まることができていないなど、附小っ子みんなが一堂に会して行事や集会に取り組むことは難しいかもしれませんが、6年生が中心となって120年の歴史から学び、感謝し、未来を見つめ、新しい附小の歴史を切り拓いてくれると確信しています。



昭和32年 校舎